

「経営は、理念の伝承なり」

中小企業の社長は、20年から30年と長く続けることが正しい！

これが、多くの中小企業を、間近で見てきた実務家である私の実感です。

学者の書いた経営書（マネジメント書）には、大企業を参考にした、実務を知らない、机上の空論が大半です。そこには、“ワンマン経営は悪の根源”と、長期政権の弊害や、経営の民主化こそ理想的経営という、中小企業の現実を全く知らない、学者のたわ言が、さも未来の経営の様に書かれています。汗と涙と時に、血を流しながら経営する者から見たら、噴飯ものと言える内容です。

この学者の書いた経営書を、真面目な若い社長が信じて経営したら、早晩、倒産の憂き目に遭うことは間違いありません。中小企業の経営は、そんなに甘いものではないのです。

確かに、大企業では、4年乃至6年ほどで、社長交代が行われるのが通常です。大企業には、組織やシステムが、しっかりしたものがあります。ですから、社長が、数年毎の短期間で変わっても、経営に何等、影響はないのです。

一方、我々中小企業は、大企業と与えられた状況が全く違います。

中小企業は、製造から、仕入、販売・営業、資金繰り、更に人材の採用から昇給まで、あらゆる事が社長の日常的な仕事なのです。

多くの社長は、会社の為に、自宅の土地・建物を担保に入れて、更に個人保証までしているのが現実です。一通りの知識・技能・ノウハウを身に付けるのに、数年を要します。

「企業は人なり」と言います。この社長に付いていこう！面白い、やり甲斐のある仕事だ！人生、意気に感ず、とはこういうことか！と、**社員をして、社長に惚れさせることが、経営を成功に導く最高の秘訣です。**

そのために“経営理念の紐解き”をし、何故、一所懸命に仕事をしなければならないのか、仕事観や人生観まで、深く熱く説く必要があります。**社長自身が、古典や先哲に学び、実践を積み、確信にまでなるには、大変なエネルギーと時間が必要なのです。**これには、最低10年かかります。否、20年、30年かかる、非常に長い道程です。だから、中小企業の社長は、長くつづけなければならないのです。

従って、**世代交代・事業承継は、譲る側が60代か70代前半。請ける側は30代か40代前半がよいのです。一代が、20年から30年続けられるからです。**

次世代が、まだ若い・経験が足りない・頼りない、と思っておられる社長！あなたも、父親から見たら、同じだったのです。

思い立ったが吉日。該当する社長は、すぐに、始めて下さい。全力で応援します。



今月のポイント

不易と流行の見極め